

90年前の「関東大震災」と鎌倉

～1923.9.1震災写真から見えるもの～



鎌倉市中央図書館 (神奈川県鎌倉市) <http://lib.city.kamakura.kanagawa.jp>

基本データ (数値はH25年現在)

住所	鎌倉市御成町20-35
電話番号	0467-25-2611
人口 (図書館が所在する市町村)	173,669人
職員数 (うち有資格者数)	23人 (16人)
蔵書数	609,050冊
登録者数	102,371人
年間貸出冊数 (H24)	1,519,789冊

目的・趣旨

防災に対する意識の高まりを図るため、所蔵する関東大震災関係資料を整理・展示し、PRする。同時に野外調査を実施し聞き取り・手記等を資料としてまとめる。

取組概要

90年前の関東大震災で鎌倉 (当時は町) は、全戸数4,183戸中、全壊1,455、半壊1,549、埋没8、流失113戸、地震直後に発生した火災で全焼443戸という甚大な被害を受けた。

当館では関東大震災後、寺社、各区長等から町役場に提出された被害状況調査等の原本 (170件285点) を所蔵しており、震災90周年に向け資料を整理、デジタル化を進めてきた。

それら原資料・デジタル資料を使って展示会を開催することにより、過去の悲惨な経験を未来に活かすよう考えた。

展示は平成25年9月1日～10日までの10日間開催した。

また期間中の9月7日には、神奈川県温泉地学研究所の萬年一剛主任研究員による「1923年大正関東地震による津波」と題する講演会を開催した。

特徴

長年保存されてきた貴重な郷土資料を節目の年に合わせて整理・デジタル化し公開したのが特徴。防災への意識向上と、図書館が資料の貸出だけでなく郷土関連の貴重資料を所蔵・整理・活用していることを周知する効果が見込める。

①整理事業

平成20年度から資料のリスト化・デジタル化を始めた。デジタル化後、原資料は中性紙製の保存箱に保存した。



デジタル化した「戒厳令とは？」のビラ

②展示・講演会事業

展示会場を原資料と写真のコーナーに分け展示。デジタル化資料はスライドショーで映写。期間中に講演会も実施。



会場一杯の参加者が真剣に耳を傾けていた

③聞き取り調査・手記の収集

数少なくなった生存者や古くから在住する人達へ聞き取り調査を行い、約60人の手記の収集ができた。今後とも継続して資料としてまとめていく。



収集した手記のファイル

取組の成果と今後について

短い展示であったが、地元鎌倉のみならず東京・横浜他から1900人を超える来場者があった。また市議会でも常設展示をとの声もあり、関心の高さを感じた。展示終了後、自治会・幼稚園等から出張依頼があり、関連資料寄贈の話もあった。現在、支所への巡回展示を実施中。今後も体験者や住民への聞き取りを続け、資料として纏めたい。またデジタル化した資料はHP等で公開し、防災の意識をさらに高めていきたい。